

*田村 昭夫 0期

昨日（8月22日）、12期小西一家が拙宅を訪ねてくれました。楽しい語らいのひとつでした。近くの郡山市に越してきた由。表敬訪問を受けた訳です。

小屋酒場に出席します。

（80円切手ですから、準速達のはずです。）

（別便）拜啓 昨日、久し振りにカミさんと裏盤梯を散策してきました。思えば三十一年前、同床異夢はこの地から始まりました。そして昨日も又、カミさんが足を挫いたのにも気付かず、ドンドン歩いてしまいました。でけた。

「秋深し アキ・アキ夫婦 飽きもせず」

（昭夫）（昭子）

敬具

学制改革私案

0期 田村 昭夫



日本の大学生の学力低下が云われている。（これは今に始まったことではないが。）

学問は嫌いだが、学歴は付けておいて損はないと進学する学生がほとんどだから、これは当然なことである。

生活に心配のない経済的に豊かな階層の若者や、時間を持て余した年金受給者層が遊びに行く所、そこが大学である。ラッファエッロの名画「アテネの学堂」に画かれている人物達は、プラトン、アリストテレス、ターレス等で、時や歳を超越して勝手気儘に議論したり思索したりしている。教授も学生もいない、学問と真理を愛するものの集う所が、ラッファエッロの画く理想の学堂である。従って、入学試験や卒業証書など無用となる。

一方、貧しい家庭の若者は生きる為の技術を身につける必要がある。その様な青年の進学先は各種専門学校がある筈だ。そこでは、厳しく、

自立出来る青年を鍛える場としたい。

専門学校では授業料を無料とする。しかし、卒業試験は厳し過ぎる程にする。一方、高等遊民達の集う所、大学は、高い受講料をとり、講師（*1）達への謝礼とする。

教育、経済、法学、医学、農学、工学（*2）等の実学は大学の学部から外し、専門学校に譲るべきだ。老若男女が、宗教、哲学、文学、芸術等を楽しく学び合う楽園が、大学の本来の姿である。

つまり、旧学校制度に戻すことだ。旧学校制度はドイツに学んだものだが、戦後GHQの云いなりになって米国の制度を真似てしまった。本家ドイツは米国の云いなりにはならず、制度を取り入れなかった。頑固なゲルマン魂をそこに見る。

*1 講師は誰でもなれる。

*2 工学を大学の学部に入れたのは、日本が最初である。科学と技術は全く異質なのに、科学技術などと云う言葉を作ったのも日本だけである。

ミレニアムに思う

0期 和飲酒多飲

日本は今、老人大国である。

「人生五十年」と云われた約百年前と比較して、はたして今の八十才の老人達は幸福だろうか。むしろ長生きする事に負担すら感じてはいないだろうか。介護医療など無用と思っている老人も多いのではなからうか。

人生とは退屈以外の何者でもない。特に、子供が成人してからは。

孫の顔を見たいとか、孫の結婚式に出たいなど、贅沢と云うものだ。少なくとも私は孫など見たいとは思わない。

出来れば、晩年はベルクハイムに住みつき、金沢市民の「憩いの場」としての倉谷を守りたい。そして倉谷の地を市民と「渡鳥」達の交流

の場としたい。さらに子供達には、自然の優しさと厳しさを体験させたい。

それにはダムからの道を整備しなければならぬ。建設工学出身のワングルOBの出番である。

また、木炭の製造工場を今年こそ立ち上げたものである。昔倉谷で炭を焼いていた人達に秘伝を習い、後世に伝え、且つ、元気な老人達の生き甲斐の場を作ることが、我々金沢大学ワングル部役割でもあると思う。



21世紀へのお荷物 (金大ワングル同志への メッセージ)

喰っちゃ寝老人、五十過ぎのサラリーマン、年金生活者、税金にたかるウジムシ達。しかし浮浪者（ホームレス）は決してお荷物ではない。腐敗、墮落した今の世で彼等こそ立派に自立した掃除人（スカベンジャー）即ち、「糞コロガシ」（スカラベ）である。

私は21世紀の偉大な「糞コロガシ」になりたい。

*岩井 修 3期

拝啓 KUWV部を創設するメンバーの一員となり、WV活動にすべてを忘れていたのはもう40年の昔の事です、私の充実した青春の日々でした。以来、山登りは続けましたが、いつしか企業戦士となりひたすら仕事と生活に没頭した日々となりましたが、それはそれで良い人生でした。”人は生まれ、生きている限り社会のお世話になっている。だから働く事により少しでもお返しをするのが人の道”との人生哲学に従って歩いてきた人生です。何も思い残す事ありません。

しかし私も2000年3月には60才となります。
(1998年2月にはもはや私を必要としなくなった武田薬品を退社し、私を必要とするニッショ

ーに入社し、新しいプロジェクトで毎日13時間働いています。)

1999年11月13日には初孫(サッチャン)が生まれました。そろそろ人生の転機として”死ぬための準備”に入る時期かなと考えています。
ヒンズー教で云えば

私の今の状態 オワリ
生まれ 学生期 家主期 林間期 放浪期
(一人前になる勉強) (家族を守る) (一人に彷徨っている) (たれ死ぬ)

俺は今から田村教祖よりスゲー事をやらかすぞ!!

OBとして何もしなかったのに、いつもいつものお便りに感謝しております。 敬具

*森島 稔 4期

残暑お見舞い申し上げます。大変遅くなってしまうましたが、7月から左記へ転居しております。6月までの間は送別の毎日、7月から挨拶まわりで、1ヶ月してようやく平常になりつつありますが、未だです。

2月からの月一登山の様子は別にまとめてお送りします。

*高田 昌嗣 4期

いつも一方的にお世話になっております。1月にドイツから帰国し、6年ぶりの日本の酷暑の洗礼を受けて、ほとんど夏バテの状態です。これでやっと日本に腰を落ち着けることになったので、今後はOB会の行事にも参加出来るものと楽しみにしています。

3期の登内氏の後をうけて、サラリーマンを卒業する日もそう遠くないところまできたので、これ迄に出来なかった山歩きの復活と晴耕雨読の新しい人生に向けて、もっぱら体力の維持、増強に励んでいます。

私の郷里は福岡県久留米市ですが、名簿によると6期の石橋、大崎氏もあり遠くない所に居られる様なので仲間に入れてもらおうと思っ

ています。

*川島 勇 5期

やまざと11号有り難うございました。皆さんの
お便りを拝見し、青春時代にタイムスリップ
したような気分になります。

小生も最初の職場を4年前にリタイアして
現在第2の職場で時間的余裕も出て山歩きを楽
しんでおります。

昨夏は北アの表銀座通りを常念岳から燕岳へ
縦走を楽しみましたが、今夏は7月24-25日
に南アの北岳へ、続いて8月7-8日に北アの
白馬岳を楽しんで歩いてきました。中高年の山
歩きで、幸い両方天気に恵まれ、特に白馬岳か
らの展望は素晴らしく、高山植物の花々と共に
強い印象に残りました。

山歩きを出来る喜びを味わいつつ頑張ってお
る昨今です。

*林 克郎 5期

毎回やまざとを送付して貰いありがとうございます。

この度転勤し、表に記載の場所に移る事にな
りました。勤務先はNTNトランスミッション
ズヨーロッパとなります。

OB会誌は今後再び帰国する迄、送付を止め
ておいて下さい。OB会の発展と、OB諸氏の
ご健康とご活躍を祈っております。

再度皆様及び会誌にお会い出来る日を楽しみ
にしております。 以上

*合津 尚 6期

今年の夏は東北も暑くてビールばかり飲んで
走り込みが不足でした。

4、5月は山菜取りで忙しかった。熊が多い
ので大変です。5月22、23日焼石岳の一角、経
塚山(1300m)に登りました。雪が多く、冬山的
でした。

7月31、8月1日岩手県内で最も秘境といわ
れる和賀岳(1400m)に登りました。春には雪が
多すぎてナダレの危険があると思い、見送った

のですが、夏は簡単でした。

「やまざと」の倉谷や犀川の資料懐かしく拝
見しました。S39年には犀川ダムのコンクリー
トの配合を実習でやっていました。水漏れして
いませんか？

*今井 春昭 6期

御無沙汰しております。というよりも怠けて
おりまして申し訳ありません。OB会事務局の
舟田さんに心から敬意を表します。現在県立岐
阜商業高校に勤務しておりますが、その関係上、
10期寺本氏、16期川端氏とは懇意にしてもらっ
ています。

*伊予 欣二 8期

いつも御苦勞様です。舟田さんのすごいパワ
ーと、懐かしい顔と便りを載せて、楽しく読ま
せて頂きました。

私の方はかなり前の白山が最後のままですが、
敦子さん(10期)は近郊の山歩きや、北アを歩
いています。今年も針木一鳥帽子を歩いて来て
コマクサがきれいだったと。

今後ともよろしく願い致します。本日遅く
なりましたがようやく振込ました。

*篠島 益夫 8期

やまざと11号を受け取り、昔の仲間や山の情
景に想いをめぐらしながら読み始めたところ
です。

今年は5月10日の四国の剣山に続き、7月10
日には山陰の大山に嫁さんと一緒にチャレンジ。
登山口から1000mの標高差の登りは久しぶりで、
だいぶシンドかったが、コースタイム通り3時
間40分で登ることが出来て、まだいけるぞと少
し自信を回復した所です。

夏後半から秋にかけては広島、島根、岡山県
の県境の1300m級の山々と四国の石槌山を楽し
むつもりです。

鳥取の大山は、遠目には岩峰の連続のように
見えた南峰も、多くは山の崩壊による地面の露
出景観だと判ってきましたが、山全体の崩落が
ひどく、高山植物も巻き込まれて被害が出てい



るやや痛々しい山でした。日本列島や山の歴史で起きている現象でもあり、泥縄のような崩落防止工事も自然の歴史に逆らっているような感じでした。

OBの皆様の自分流ワングル活動を、やまざと誌面で教えて下さい。 以上

*白井 勇 9期

拝復 会報お送りいただきありがとうございます。

ワングルOB会もE-Mailですか。山村先輩、篠島先輩はじめ、同期の伊藤、山中、保田兄達の老眼にもめげずキーボードにむかわれている姿が目にかびます。

小生、目下殆ど「会社人間」です。四日市の片田舎の倉庫会社にも「国際会計基準」の大きな波が押し寄せてきており、21世紀の生き残りをかけて無い智恵をしぼっています。



*木津 治男 10期

前略 「やまざと11号」受け取りました。ご送付ありがとうございました。毎回ボリューム満点の労作ご苦勞様です。久し振りに、青春時代の懐かしい仲間の便りや、山の息吹にふれ、このところの猛暑にうだっていた身も心も少しシャンとした気分です。

e-mail通信は限られています、送信する方が割とフリーな気分で送れるので面白いと思います。

上村氏の自然保護通信や御大田村氏の便りは面白く読みました。田村氏の「新平家物語」はかつて部室に備えてあった落書き帳を髣髴とさせるもので、ついにやにやと読んでしまいました。また、石川の百低山や犀川源流等のガイド記事はちょっとした情報ですね。利用実践にほど遠い者にとっては豚に真珠かも。

現役の合宿メモからは、8-9日間の北ア南ア4Party と少な目になっていますが、今昔も変わらぬコースで「あーやってるな」という思いです。

本号でOB会のHPが掲載されていることを

知り、早速アクセスしてみました。世の移り変わりを感しました。

次の5年分の会費送ります。よろしく。

*白石 淑子 10期

会報ありがとうございました。会報を読んでいると、まるで学生時代にタイムスリップした様な感じになりました。

今年の夏のあまりの暑さに、暗くて冷たい沢の五指に入る甲川（きのえがわ・大山山域）へ行ってきました。何度行ってもおもしろい沢ですが、年々体にこたえます。

スノーブリッジをぬけて眼前に現れた犀滝に対面した時の感動は今でも鮮やかに残っています。あれが沢歩きの新体験ではなかったかと思っています。

*寺本 典生 10期

やまざと11号ありがとうございました。その後のことについて

- 1) 我が校にも山岳同好会が発足しました。熱心な新入生と、昔の山仲間である学年主任が顧問になろうということで、渋る教頭をなだめて…。早速活動を始めていますが、小生は日程が合わず、なかなか同行できません。
- 2) 11号では、先輩諸氏のEメール原稿からのものをたくさん読ませていただき、再チャレンジを考えております。前の所属では、受けても、回答は次長室へ走ったり、庁外へは電話…。こころで心を入れかえるべきようです。悪筆や字の書き誤りもカバーできますし…。

*矢崎 利哉 11期

創部40年。早や半世紀経つとは、我々の時代に、10周年記念をし、創部時代のツワモノにお会いし記念号を出したのですが、それもはるか昔のこと。

すさまじく動いているこの頃に、変わらぬ自然とワングル魂をかいま見れるのは何にも変えがたく…。小生、最近は御近所様とテニスに熱を上げ、愚妻との年1回の山行（温泉）を楽し

んでおります。諸兄の御健康を。

*津田 伸生 12期

拝啓 大変ご無沙汰いたしております。OB
だよりをお送り頂きながら、ご連絡をさしあげ
るのが遅くなり申し訳ありません。

小生、四半世紀の東京暮らしを経て、昨年10
月に金沢へ戻ってきました。その矢先に大出氏
の事故があり、こちらでは会えずじまいとなり
ました。

本年8月21-22日に、彼の追悼を兼ねて12期
OBを中心とした集いの会を河内村千丈温泉で
開催しました。

12期で金沢在住は大出夫人と小生のみですの
で、今後イベント等ありましたら、ご一報頂け
れば幸いに存じます。 早々

大変遅ればせながら、11年度OB会費5000円
を振り込んでおきました。

(事務局より。年会費は2000円ですので、2.5
年分と処理いたします。)

*橋正 徹 13期

昨年の医王山記念山行以降、ゆっくりとしか
も確かに心の中の重要な部分で、山の思いか頭
をもたげてきつつあります。

今は、第一段階として、NHKTVの趣味悠
々の「日帰り登山で基本を学ぶ」のテキストを
購入し、また放送を視聴し、勉強を始めました。
同期の吉田穂積君から最近の登山情報について
情報を得ることも忘れていません。勿論、きた
るべき山行に備えての靴の購入積立預金を始め
る必要性も感じています。何年か後には、この
「やまざと」誌上にて山行報告が出来ればと願
って止みません。

ところで、能登に生活の根拠を置いて後、20
数年にわたって、能登の山々の植物について、
特に穴水の植物について調査を進めてきました。
今、手元には記録が整理されていませんが、そ
のうち植物のリストだけでも紹介できればと思



っています。特に三角点周辺の植物については、
身近な低山の日帰り登山の継続の「証」とも言
えるもので、是非にと思っています。

5万分の1の地形図や2.5 万分の1の地形図
が手の届くところにある生活を大切にしたいと
と思っています。

*辰野 隆義 13期

13期生がさる11月13、14日に第7回目の集い
を開催しました。今回のサブタイトルはベタベ
タの東京見物。東京在住27年の島崎君がコーデ
ィネートしました。

その中でも最も話題となったのは、13日の夕
食でした。連れていかれたのは、有名な「どぜ
う屋」。どぜう鍋に、柳川、蒲焼、汁物、骨煎
餅と一生分のどじょうを一晩で食しました。そ
の数推定 50-60/人。

おいしかったと言う人、もうこりごりと言う
人、反応はいろいろありましたが、貴重な思い
出となりました。

*伊藤 直和 14期

住所が転々と移動します。転居も14回目。人
事異動も12回目となりました。あと何回できる
かな。

*上馬 康生 15期

槍ヶ岳の暑中見舞いありがとうございました。
うらやましいです。

当方ようやく8月から職場復帰しました。体
調はまだまだで、今年の山歩きはあきらめまし
た。毎日自主的なリハビリ、トレーニングを続
けています。

15期会に今年こそ出たいです。息子がワンゲ
ルに入って、今合宿で南ア北部へ行っています。
まだまだ残暑厳しそうです。ご自愛下さい。

*間所 新一 15期

6/14ワンゲル15期関東支部の佐野君歓迎会
(松縄、間所)

7/10ワンゲル15期会夜叉神峠ハイキング

(佐野、松縄、間所)

7/10-8/1 北岳登山

飲み会で決まったハイキング、その時の夜叉神から見た北岳に刺激を受けて、久々に山に登ってきました。

久々の山行きでしたが、昔のなつかしい感覚を少しばかり思い出しました。これからチョットずつ近くの山を登ってみようかなという気になっています。

*金井 澄 15期

先日(10月19日)、久々にテントに泊まりました。仕事です。2年ぶりに明石の海岸に産卵に来たアカウミガメの卵が産まれそうだとこのことで、泊まり込みました。

波の音や星空の中で、仕事を忘れ、生き返った心地になりました。たまにはテント生活もいいものだと思います。

ところで、パソコン始めましたが、金沢大学のホームページには行き着きましたが、ワンゲルのページが見当たりません。そのうち近況もe-mailでと思いながら過ごしています。

それから、この夏、高校卒業30周年の同窓会をして、おっさん、おばさんが再会しました。思えば石川門をくぐって30年…。早いですネ。

(冒頭のカメの子供は、神戸と姫路の水族館に展示しています。機会があれば見て下さい。かわいいですヨ。)

*佐野 哲雄 15期

最近、奥名会長の故郷の宇都宮へ行く機会がありました。途中、浦和付近の車窓から思いがけなく雪を頂いた富士山がキレイに見えました。何度も通っているのに初めてだったので、チョッと感動しました。

2000年は富士山の見える山々に出掛けようと思っております。



*大家 慎一 17期

やまざと11号うけとりました。ありがとうございます。毎回熱心に読んでおりますが、通信

せず、非礼をおわび致します。奥名会長、舟田事務局長ともに大変な苦勞をされていることに頭がさがります。

今回はじめてワンゲルのホームページを読ませていただきました。九州に帰ってから13年、山とは随分遠ざかっておりました。大分の山々にも、素晴らしい自然が残っております。身近な100m級低山にでかけようという意欲がわいてきました。

OB、現役の諸氏、九州を訪れることがあれば連絡して下さい。

*森 博彦 18期

開業して10年が過ぎました。今回、事務所移転5回目となります。ワンダーフォーゲル出身者らしいでしょうか。

*石田 郁子 21期

いつもありがとうございます。住所変更のお知らせもタイムリミットで遅くなりましたが、お知らせします。なつかしく楽しく読ませていただいています。

*加藤 万里子 21期

先日金沢へ行った折りに、金大の跡へ行ってきました。建物は全部なくなり、何か新しい物が建てられていました。(お城ができるのでしょうか?) 植物園だけを歩いてきました。下草がぼうぼうだったはずが、切られて歩き易くなっていましたが、やはりさみしく感じました。

*難波 清芽 26期

いつもありがとうございます。

8月中頃、浅草岳(1500m位、南会津)只見登山口にてテントを張り、夕暮を楽しんでおりましたところ、オロロとアブと、蚊と、羽蟻の大群に襲撃され、全身痛かゆになりました。尚、只見の名誉のため申し上げておきますが、登山口そばには、水洗トイレも水道もあり、広々と美しい所です。夏期、南会津の山々へアクセス

するなら、只見町の「いこいの森キャンプ場」は虫に悩まされず、お勧めです。(車一台3000円)

*定田 誠

26期

ごぶさたしています。3年間横浜にいましたが、異動で再びいわきに済むことになりました。横浜在住の間は、休日も委員会活動のため、思うように休めない状態でしたが、5年ぶりに職場復帰となり、少し落ち着いて生活できるようになると思います。

10年近く山とも遠ざかってしまいましたが、子供も3才となりよく歩くようになったので、ハイキングから始めようかな？と考えはじめています。

*浜本 信一

28期

会報・案内状等の発送いつも御苦労様です。依頼のありました佐原 康之君の転居先ですが、実は私も把握しておりません。お互いに連絡をとりあうことが稀になってしまっておりますので、調べる手段も思いつかない状態であります。誠に申し訳ありません。

この場を借りまして。

佐原様につきましては、早々と年会費も納めていただいております、不明とする訳にもいきませんでした。昔の部誌ベルクハイムから実家をつきとめ、「現在海外勤務中」と判明しました。

上記のように、転居先不明者は、同期代表連絡員をお願いして、探して頂いています。それでも年々、疎遠になるのは仕方がなく、せっかく実家に連絡がとれても、近年は友人・同窓会を騙った不審電話も多いため、思わぬ叱責が返ってきて狼狽することもあります(24期麻田連絡員にも不快な目に会わせてしまいました)。

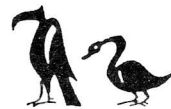
もし、不明者につきまして、連絡先をご存じの方がいましたら、一言通信に書き添え

てお知らせ下さい。

*土井 泰彦

28期

事務局の皆様、いつもありがとうございます。やまざとを読むことで、日本中どこにいても、金沢や白山のことを思い出すことが出来ます。今後もしよろしくお願い致します。



年賀状からちょっとだけ追加

一編集長はもちろん、年賀状など載せる予定なしで、原稿催促をしています。ところが海度一となってしまいます。元凶は一。

*中山 美津枝

7期

ご活躍うらやましい限りです。私、何事もほどほどにどうにか頑張っております。昨年は山行き8回ほどでした。

*三宅 毅

15期

同期会への出席できなくてすみません。仕事の方が営業で忙しくて大変です。体は健康にしています。

*北川 隆次

16期

細かい文字に、眼鏡を外す昨今です。

*山内 政司

16期

子供も大きくなりましたが、夏休みは家族で軽い山行をやっています。いつまで続くやら。

*辻村 善徳

25期

御無沙汰しております。子供につきまとわれここ2年程山から遠ざかっておりますが、今年こそはと思っております。

*北村智明・高木美保

29期

5月19日に風樹が生まれ、その日に200匹の金魚、8月には90匹のカブト虫が誕生とベビーラッシュの一年で、ますます賑やかになりました。

*深井 嘉浩

29期

今年の雪はどんな様子でしょうか？転勤で、
東京から名古屋に戻り1ヶ月、ようやく”自分
らしい生活”を取り戻しました。

DAI-ICHI KANGYO BANK EUROPE N.V.
APOLLOLAAN 171 - 1077 AS AMSTERDAM
P.O. BOX 7075 - 1007 JB AMSTERDAM
THE NETHERLANDS

TEL. 31-(0)20-5740200
FAX 31-(0)20-6760301
SWIFT: DKBLNL 2A

26期 浅井 浩一郎

Merry Christmas ! 2000年まであと僅かとなりましたが、如何お過ごしのことでしょうか。

今年になってようやく国内留守宅(妻実家)よりワンダーフォーゲル部OB会書類(ベルクハイム35周年号、やまざと会報8号等)が届きました。私自身、長らく海外勤務の為、音信不通でご迷惑お掛け致しましたこととお詫び申し上げます。また、93年にOB会が結成され、KUWVを愛するOBの方々のご尽力で意欲的な活動が行われていることを知り、大島様や船田様等のご活躍にまったく頭の下がる思いであります。

私、浅井 浩一郎は92年に一年間国内留学したあと、93年4月にアメリカ・ロスアンゼルス支店に赴任、その後97年3月にオランダ・アムステルダムにある欧州第一勧業銀行に転任し、日系企業課長を務めて現在に至っております。26期の同期数名とも年賀状だけのやりとりとなってしまいましたが、KUWVの話題が出てこなかったのは、私の不徳の致すところであります。

結婚後は登山から遠ざかってしまい、いまや山一つない低地地帯のオランダに居りますが、山を愛する気持ちに変わりなく、ヨーロッパに来てからは夏休みは毎年スイスと決めてます。取りあえずマッターホルン(ツエルマット)、ユングフラウ・アイガー(グリンデルワルド)、モンブラン(シャモニー)等の主要ポイントは制覇しました。因みに今年はグリンデルワルドに一週間滞在し、一歳の次女を歩荷しながら家族ハイキングを楽しみました(体力の衰えからか4000mを超えるユングフラウヨッホでは高山病状態でしたが、雪原をスニーカーでうろうろしました)。展望台としてはモンブラン中腹のエギーユ・ド・ミディ、ハイキングにはグリンデルワルド(ワルスト、マリッセンなど)、山の美しさはマッターホルン、麓の町としてはシャモニーがそれぞれ一番です。

仕事の話に変わりますが、七年間国際金融業務に従事し、ジャパンプレミアムや欧州通貨統合等を体験しました。欧州第一勧業銀行日系企業課ではイギリスを除く欧州大陸日系企業取引を管轄しており、西はスペイン、東はポーランド、南はイタリアまで出張ベースでカバーしています。ご存知の通り弊行は日本興業銀行、富士銀行との統合が決まっており、2002年の本体統合に先んじて、2000年中にも海外現地法人統合が行われる可能性が高く、帰国はまだまだ先のこととなりそうです。

KUWV・OB会については自分自身情熱を燃やした時代もあり、会費などなにかお役に立てることがあれば申しつけ下さい。ただ連絡先は恐縮ですが以下として頂きたく存じます(留守宅に送って頂いても、こちらまでは緊急分・重要分以外届きません)。

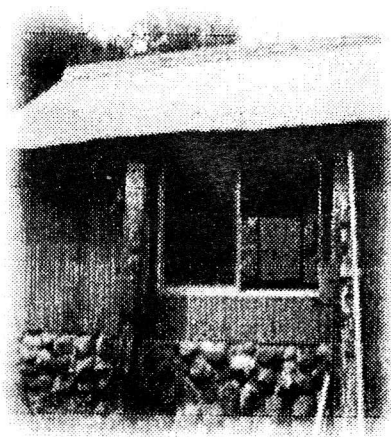
今後のKUWV・OB会のますますのご発展をお祈り申し上げます。

住所 : WEZER 26 1186LK AMSTELVEEN THE NETHERLANDS

電話番号 : 31 (国番号) -20-640-9907

氏名 : Koichiro Asai

ワングルHPの1月3日の表紙です。画面ではかわいい蛙チャンが顔を出して挨拶してくれますが、印刷しようとする、「変換中です」が表示されて、このスタイルになってしまいます。笑ってるのだあれ？編集長にすれば、感激の進歩なんです！



Bergheim

◆冬合宿レポート 前田顧問より OB通信 01/03 青柳（11期） 長岡（11期）（道 路情報あり） 森川（11期） 松林（15期） 清水（16期） ◆OB通信 12/23 森川（11期） 舟田（15期） 加藤（11期） 藤野（17期） 青柳（11期） 現役の部屋 前田顧問より ◆OB通信 12/17 加藤（11期） 森川（11期） ◆現役の部屋 12/10 前田顧問より冬合宿・ ．． ◆OB通信 12/10 清水（16期）	◆第3回OBスキー合宿 ところ：野沢温泉「ふるさと」 とき：平成12年2月26・27日 ----- 2000年行事予定 ■お花見コンパ（予定） ところ：沈床園 とき：4月15日（土） ■若年・中年・熟年・老年 in倉谷 とき：5月12日～14日 ところ：もちろんベルクハイム ■白山で会いましょう とき：8月5日～6日 ところ：南竜	◇舟田事務局長ヒマラヤへ 2000/2/22～3/5 ◇村田（7期）最高賞受賞 「北國女流美術展」写真部門最高賞 剣岳の写真で受賞  ◇長岡（11期）古地図に関し寄稿 地図に興味のある方は是非「ラパン」冬号別冊  ----- おくやみ：鈴木 正國（4期） 12/24
--	---	--

会長の「石川の百低山シリーズ」は、会報11号で紹介の後、「巻10 西市瀬山」「巻11 後高山」「巻12 白抜山」「巻13 還水観音山」「巻14 高尾山」そして今回の「巻15 倉ヶ岳」となっています。私の機械の印刷モードではこのタイプでしか出てきませんのでもっと鮮明迫力あるカラー映像は、HPから直接お楽しみ下さい。

HPでは、OB各位のHPへのリンクも行っています。「このHPは役に立つので紹介したい」の情報も歓迎です。

100m級低山紀行

石川県、特に金沢近郊の山と名の付く丘のようなところ
写真・文 15期奥名

◆倉ヶ岳



倉ヶ岳 標高 565.4m

倉ヶ岳への道はいくつかある。もっとも手っ取り早い行き方は頂上直下の大池のすぐそばまで車で入る方法であるが、これだとあまりに安直すぎて、山に登るというよりも散策に近い。

今回は風吹き峠経由で倉ヶ岳へ向かった。名前の通り「風の吹き抜ける峠」で、現在は金沢から獅子吼へと通じる林道がほぼ南北に走り、これに交差するようにかつての鶴来・内川を結ぶ道があり、その交差点が風吹き峠である。犀川の支流である内川にダムができる前は、内川沿いにある部落は金沢よりもこの峠を越えた鶴来のほうが交流の中心だったようだ。その村々がダムの底に沈み、この峠越えの道は廃れた。

峠あたりは樹木に覆われて暗い。

その薄暗さのなかに30体ほどの仏がおかれている。顔つきがおっとりして大きめである。



風吹
峠の
仏群



風吹
き峠
から
登り
きる
と緩
やか

風吹き峠からは急な登りが続く。道ははっきりしているがかなりの急登で、しかも滑りやすい。それも15分ほど耐えて登り続けると尾根筋に到達する。ここからは多少のアップダウンはあるもののほぼ平坦な尾根道で、歩く分にはまったく苦にならない。ただ、道は林に囲まれているためあたりの景色を楽しむことはできない。

ほとんど行き交う人もなく、カモシカも人が来ることを予想していない。出会ったカモシカはすぐそばにくるまで気づかなかったようだ。（



頂上
間近
の岩
場